

弁

解

弁解一 「都合の悪いことや過失などをとりつくろうための説明をすること。」とあります。が、このようなことが平然と為される時代に私たちはいるようです。毎年のように行われる国政、地方の選挙でもどこまでも、うそ、いつわり、弁解が多いようですね。何が真なのか、こちらの方も疲れてしまい、やがて忘れ、慣れてしまい、追求の意欲さえもそがれてしまいます。日本人はいつからこんなに忘れっぽくなってしまったのでしょうか。嘘もつき通せばやがて本當になつてしまふかのようです。サミット、オリンピック、国際的な行事も多いためですが大きな嘘も多いようですね。たわいのないことでしたら冗談で済まされますが、他人をどん底に突き落とすような事も平氣で為されるように見えます。オリンピックの招致の不透明さ、競技場、エンブレム、消費税、裏金、パナマ文書、どつかの知事の公私混同など上げればきりがありません。それも国政を担うような、りつぱな人、から出でます。追求されなければいつも泣くのは庶民と呼ばれる多くの人々です。昔からあつたことなのかもせんが近頃は目に余ることですね。恥知らずの人を「無慚無愧」と申しますが、他に恥じず、自らに恥じない畜生そのものの姿です。あまりにも大きな嘘、又弁解の上手さに見破ることは至難の事です。もし見破られても、弁護士などを通じて、いいわけ、繕いの天才です。

嘘と弁解と、責任をとらないことが、この國のありようなのかと思えます。選挙公約でも出来ないこともあるでしょう、嘘もあるかもせんし約束を違えることもあるでしょう。

そのことは認めるにしても、許せないのは、「間違いました」「ごめんなさい」「できませんでした」という【謝る】ことがないのです。その代わりに出てくるのは【弁解】ばかりです。笑つて茶化して、責任は他の原因に押しつけてしまいます。芸能人の方がまだ眞面目ですね。選ばれた特別な人の感覚が強いのかもせんね。どこかで中国、北朝鮮を敵国扱いします。でもそんな私たちはどうなのでしょう。それらの国を笑える資格がありますか。

同じようにうそ、いつわり、弁解をしているのは私たちではないですか。しかもこのことに慣れてきますと何が嘘だかも見抜く力さえも失つていきます。なぜそのことを見抜けないのも事実です。仏教では我欲の捨てる事を教えます。しかし残念ながら我欲は捨てきれないのであります。しかし弱さはそこにあるのでしょう。しかしそれを仏教では我欲と言うのです。人間の弱さはそこにあるのでします。しかしそれを仏教では我欲と言うの世の中なのです。私たちの煩惱の世界は果てしなく深く、なまじつかの修養ぐらいではびくともしません。そのことを知りつつの弁解は見苦しい事です。とりつくろいの人生はむなしいですよ。一時のぎにはなつても一人になつたときにはどんなに悲しくつらいことでしょうね。弁解などでごまかさず、そんな世界を乗り越えてしまいませんか。

平成二十八年

七月